

奈木間の複線化を加えて、全体事業費は約一三五億円、四一年度以降の残事業費が一六億円という膨大な額であるが、四四年三月までに計画を完了するよう促進している。

これによって、鹿児島本線の貨客輸送力が大幅に強化され、また一段とスピードアップされて、本県の産業活動に活気を呼ぶことになろう。

③熊本空港の整備——熊本空港は、四〇年度予算で、すでに事業費一億円がついて、実施設計がきまり次第着工できる段取りになっているが、ことは、二億円以上の事業費が予定され、本格的に拡張工事がすすむことになっている。

この工事は、滑走路を現在の二、二〇〇坪から二、〇〇〇坪に、エプロンを二パスから六パスに拡張するもので、その結果、現在就航している三五人乗りフレンドシップ機より大型の七〇人乗り程度のバイカウト機が発着できるようになる。完成目標は四三年で、完成すれば熊本空港は、大熊本市にふさわしい施設と機能を備えることになろう。

④国道バイパス群の建設——A群で述べたように、国道三号線と国道五七号線は、いずれも、こととして本線は整った姿になるが、産業活動の急激な高まりで、はやくも各地で車輛の停滞がでてくる。このため三号線では、北部村の四方寄から熊本市の浄行寺に抜ける新熊本バイパスが建設されており、ことは松崎

浄行寺間の工事に三億九、〇〇〇万円の事業費がまわっている。また、植木バイパスについても、ことしから事業に着手する予定になっている。

五七号線では、熊本市内の交通難を緩和するため、菊陽村から熊本市を東廻りに抜けて富合村に達する東熊本バイパスの計画が促進されている。また、大津バイパスについても、一両年中に調査段階

次に、県内を大まかに三つに分け、まず城北地域の開発上、中核となる事業の動きをみよう。(表2)

県計画にも明示されているように、城北地域の夢は、有明地区新産都市の建設、企業的な農業の振興、広域的な観光の開発の三点に集約されることができよう。では、この開発目標に向けて、どんな事業が仕上がり、どんな事業が始まろうとしているか。

**A 群**

城北地域では、鹿児島本線の熊本以北の電化、国道五七号線の坊中バイパス、立野バイパスの整備、国道二〇八号線(熊本佐賀線)の八嘉台地バイパスの開通など、この地域だけでなく、県勢全般に影響するような大事業が、相ついで仕上がりつつあるが、これら以外に農業基盤の整備も着々すすんでいる。

**城北地域の開発**

に入るようになってきている。このほか熊本市の立田山沿いに、新熊本バイパスと東熊本バイパスをつなぐ環状のバイパス構想も検討されており、やがて陽の目をみることになろう。

これらのバイパスが完成すると、熊本市の市街地交通の姿がかわり、管理中核としての都市機能にマッチした交通体系をもつことになろう。

①横島干拓の造成——国营横島干拓は昭和二一年に着工して以来、営々として建設工事がすすめられてきたが、四〇年度までに、全体計画三二億円のうち二四億円以上の工事がはかどり、ことは干拓堤防を締めきって、完成一歩前の段階になる。

入植は、早ければ四三年に行なわれ、約四〇〇畝の水田を基盤にした企業的水田経営が誕生する。この干拓地に給水する玉名平野土地改良事業の基線水路も、白石堰の完成以後、順調にすすんでいる。

②久木野かんがい排水、うてな台地畑地かんがい——久木野地区の受託県営かんがい排水事業はことし仕上がり、二七〇畝の水田が造成される。この地区は、阿蘇南郷谷の南側斜面にあつて、これまで耕地の水田率が低く、生産性の低い雑穀畑作が多かつたが、この事業の

**B 群**

流杖立川の本県地内に多目的ダムを設置し、この水を菊池川支流の迫間川に落して調整し、そこから菊池台地に導水しようとするもので、受益面積一万四、〇〇〇畝、受益市町村は菊池市、山鹿市ほか一町村に及ぶ。この計画は、本年二月一日に定められた筑後川水資源開発基本計画の中で、調査の進行をみて必要な措置をとることが明記され、ことは、筑後川関係四県分として、農業調査費五、五〇〇万円がまわっている。

菊池台地に水が入れば、水がないために本県最低の生産力に甘んじてきたこの地域の農業は、酪農、養蚕、米、そば、たばこなどの多彩な基幹作物を柱に、高い生産力水準の農業に生れかわるだろう。

次に菊池川ダム計画は、菊池川本流または支流の適当な地点に、治水を主目的として、発電などに利用する多目的ダムを建設しようとするもので、三六年以来県独自で調査を行なってきたが、昨年度は、経済企画庁が配分する調査調整費で、またことしからは建設省の直轄調査

城南地域の夢は、不知火地区新産都市の建設、緑川、氷川および球磨川の総合開発、米、みかん、そばなどを基幹にした暖地農業の振興の三点に集約されることができよう。ではこの目標に向けて、各

**城南地域の開発**

種々の基盤整備事業がどう動いているだろうか。(表3)

**A 群**

費で調査が行なわれ、計画が促進されることになった。

菊池川の現在の流量では、有明地区の臨海工業地帯に給水する余力に乏しいが、このダムができると立地する工場群の需要を満たすことができよう。

⑤大規模草地改良事業——阿蘇地区の広大な原野は、畜産の開発に無限の可能性を秘めている。この可能性を拓くために、すでに昭和三六年から小規模草地改良事業が行なわれてきたが、ことしからは、農林省直轄の大規模草地改良事業が着工されることになり、初年度の事業費として一億円がまわっている。

この事業は、四五年までの五年間に、事業費約一六億円を投下して、草地一、七〇〇畝を造成し、牧道、牧さく、飲雑用水、ひ難舎など必要な施設を完備して、大規模な放牧畜産を行なおうとするもので、わが国の畜産史上、まさに画期的な事業である。この畜産を柱にした豊かな高冷地農業が生れるものと期待される。

表2 城北地域の基盤整備事業 単位：千円

A 群			B 群		
事業名	完成年	全体事業費	事業名	期間	全体事業費
国営横島干拓	21~42	3,212,000	阿蘇スカイライン	40~	2,800,000
久木野かんがい排水	39~41	83,997	城北開発横断道路	39~43	3,639,218
うてな台地畑地かんがい	37~41	122,133	熊本玉名線	39~43	1,081,323
			熊本浜線	41~	592,000
			菊池川総合開発ダム	40~	—
			菊池川総合開発	41~	18,100,000
			菊池台地農業開発	41~	—
			大規模草地改良事業	40~45	1,670,554
			天水台地畑地かんがい	41~	—